

事業目的

- OBDポート経由でデータをやりとりし、実用的な電池容量推定ソリューションを提供する
- いくらスーパーバッテリーができて、使用中にその性能を評価できなければ、片手落ち
 - 国連GTR No.22や国交省OBFCMなど適切なSOCE(SOH)を知るニーズが表面化し拡大しているが、電池開発の進化スピードに比べ、劣化診断技術は大きく立ち遅れている
 - 電池はリセールバリュー査定や検査の対象外であり、xEVはICEより残存価値が低い
 - 電気化学ではなく電気数学的アプローチを採用することで、永年の技術課題を解決する

事業内容

- ① xEV駆動用電池の容量を ② 車載状態のままで ③ 特別な機器を用いることなく ④ 数分以内に ⑤ 80%～90%の高精度で 推定する プロダクトを研究開発～提供する
- HEVから参入. NiMH電池が大半であり、世界中で実用化された例を見ない(当社調査)
 - 日本ではxEV登録台数の96%はHEVという現実(1410万台, PHEV・BEVは70万台, 2026.3)
 - ノイズだらけ・SOCに対しフラットな電圧曲線、ECUによるPseudo-SOC等、難易度が高い
 - Li-ion電池に広げる、高精度で差別化する(優位な測定条件でのEIS法でも50%～65%)
 - 測定工程を自動化する(リバースエンジニアリングでCAN-IDやPIDを取得～ECUを制御する)

事業成果

- 国内パートナー企業のT社と協業し、P社(中古車情報サイト大手)での採用が内定. 今年の投入に向け、計画通りのプロダクトを開発中
- 掲載55万台のうち22万台はHEV、国内中古車市場の20%弱シェアと推定
 - Toyota/Lexus HEV(NiMHからLi-ionへ)から、Honda、輸入車などへ順次拡大していく
 - デバイスのプロトタイプが完成し、量産化をパートナー企業と協議
- 米国でのパートナー企業L社と協業予定. 日本での成功事例を移植

事業者情報

プロスペクティブ・テクノロジーズ株式会社

PROSPECTIVE
TECHNOLOGIES



(プロダクト・ブランド)

所在地: 東京都渋谷区
設立年: 2024年

<https://prospective.co.jp/>

ビジョン: Be a Global Platform for Battery Health and Performance Management

概要図等

